

Rotary Club of AMA



2014-2015年度
国際ロータリーテーマ

LIGHT UP ROTARY



2014~2015年度 RI 会長
ゲイリー C.K. ホアン

第2760地区ガバナー

近藤 雄亮

会長 栗木 和夫

副会長 篠田 正志

幹事 白井 幹裕

例会日 毎週月曜

例会場 名鉄グランドホテル

事務所 〒453-0015

名古屋市中村区椿町17番16号 丸元ビル

TEL (052) 451-6617

FAX (052) 451-6710

区 域 愛知県・海部郡内3町村と2市

会 報 田邊 正紀 大西 晃弘 神田 康史

柏子見 昌敏 大竹 和美 山田 幸治

2015年3月2日（晴れ）

第1週 第2101回例会

Song ”君が代・奉仕の理想”

Guest 三輪智輝氏（伊藤正征君ゲスト）他3名

Attendance

会員	79名	欠席	11名	出席率	84.06%
----	-----	----	-----	-----	--------

President Time

栗木和夫 会長



皆さん、こんにちは。ビジター、ゲストの皆様、ごゆっくりとあまRCの例会をお楽しみください。本日はあま市長村上浩司様に卓話をお願いしました。市長、よろしくお願ひします。

先日、夜間友愛例会にお招きした、春本道治さんが理事長をしてみえる特別養護老人ホームを調べてみました。特別養護老人ホーム（特養、介護老人福祉施設）とは社会福祉法人や自治体が運営する公的な介護施設で、収入や課税金額などに応じて補助金や助成金が受け取れる為、寝たきり状態など、介護を必要とする重度の要介護者が、少ない費用負担で長期入所できる施設です。サービス内容は生活援助が中心で、医学管理下におけるケアの対応は限定的で

す。又終身利用が可能な為、寝たきり状態の要介護度が高い人にとっての終の棲家となります。概ね1ヶ月の入所料金は多床室と個室の差はありますが、介護サービス費とその他生活費合計で8万円から13万円程度です。入所希望者が多く、平均在所日数が約4年と長い為、都市部では満室の施設がほとんどです。しかも厚生労働省や地方自治体は財源不足の為に、特別養護老人ホームの新設を制限しているため、全国で現在50万人以上が待機しており、入所まで通常、数か月から10年程度の期間を要すると言われていす。皆さんは大丈夫と思いますが、施設でお世話にならないよう気をつけてください。特に高血圧や糖尿病の人は、認知症になるリスクが高いので生活習慣を見直してください。特にお酒を飲まれる方は2杯まででお願いします。

Secretary Report

白井幹裕 幹事

1 第4回時期準備理事会のご案内

日時 3月9日（月）18:00

場所 料亭 蕨茂 中区栄3-9-27

Today

3月 9日（第2102回）

担当

栗木和夫 会長

演題

地区大会報告

Next Week

3月16日（第2103回）

担当

宮下忠克 職業奉仕委員長

演題

クラブフォーラム

「職業を通じての奉仕を考える」

職業奉仕委員会

ご投函有り難うございます

栗木和夫 会長

あま市長村上浩司様、卓話よろしくお願ひ申し上げます。

RC110周年、あまRC2100回例会記念夜間例会において、大竹和美初代会長、熊沢君の胴体着陸の話本当ですか？有り難うございました。親睦活動委員の皆様、お世話になりました。ゲストの皆さん、甘い苺に誘われて入会？

篠田正志 副会長

あま市長村上浩司様、本日の卓話よろしくお願ひします。また随行の皆様、お世話になります。

臼井幹裕 幹事

あま市長村上様の卓話を楽しみにしています。

北澤栄一さん、例会を体験して、是非入会を！

清水明俊君

あま市長村上浩司様には、3月議会議中でもあり大変お忙しい中、あまRCの卓話にお越しいただき誠に有り難うございます。私も「あま市観光協会会長」として、日頃からあま市の発展のためにご協力させていただいておりますが、本日のこの機会に市長の考え・思いを勉強させて頂きたいと思ひます。今後もあま市長のご健勝と益々の発展を望んでおりますので、よろしくお願ひいたします。

東海広光君

中西君、次年度国際奉仕委員会フィリピン「子どもの家」支援現状視察では大変お世話になりました。同行いただきました大竹敬一君、児玉君、お疲れ様でした。ご協力本当に有り難うございました。

次年度IDM、Bグループ、Fグループ参加の皆様、有り難うございました。どうかよろしくお願ひいたします。明日からAグループ、Eグループ、Cグループと3連投です。児玉次期幹事、高山次期クラブ奉仕委員長、頑張りましょう。ご出席の皆様、よろしくお願ひいたします。

山田幸治君

わがクラブで脳梗塞になった方は6人です。3人亡くなり、1人退会、2人が残っています。皆さん！脳梗塞に

なったら、直ぐ病院に行きましょう。毎日散歩の時に会う、重度の脳梗塞の方が初めて挨拶をしてくれました。

伊藤正征君

ゲストの三輪さん、今日の参加有り難うございます。

前田重廣君

ニコボックスの皆様、ご苦労様でございます。

中西 巧君

東海君、大竹敬一君、児玉君、次年度国際奉仕委員会の事前現地視察ではご協力頂きまして有り難うございました。ハードなスケジュールではありましたが、現地の社会問題を身近に感じられる事が出来ました。身の危険を感じながらも充実した3日間でした。

大竹敬一君

中西君、奥様、フィリピンではお世話になりました。

東海君、児玉君、お疲れ様でした。

山田尊久君

第16回西尾張ロータリークラブの美術展に出展させていただきました。43名の方々の作品に交じって参加でき、とても励みになりました。

後藤 眞君

あまRC40年記念、蟹江署LEDディスプレイ不作動を、パソコン新品1台寄贈し作動開始いたしました。是非通られたら見ておいてください。

家田安啓君

風邪気味です。皆さんもご注意ください。

伊藤英毅君

冬の琵琶湖を楽しんでまいりました。何時も本当に美しい国だと思います。

川口信義君

春とは名ばかり、寒いですね。

児玉憲之君

2/27~3/1間で、フィリピンへ現地視察に行ってきました。視察に参加されました東海君、大竹敬一君、中西さん、大変お疲れ様でした。

次年度東海年度のIDMIに参加の皆様、有り難うございました。

黒野晃太郎君

子守に大変です。

水野 眞君

ロータリークラブ110年の中、20回国際大会に出席
しました。よく行けたものです。

酒井和雄君

日航ホテルバイブリッジ、プール・ジャグラー。柏子
見君有り難う。

田中正博君

春が来た、春が来た。

横井久雄君

栗木会長、2月26日希望の郷大治開所式、出席大役有
り難うございました。

吉田 勤君

春になりました。会計事務所は確定申告でまだ通り春
です。

3月誕生日をお迎えの方々より

合 計 56,000円

卓 話

「あま市のまちづくり」

あま市長 村上浩司氏



みなさん、こんにちは。本日は大変お忙しい中、お集まり
いただきましてまことにありがとうございます。日頃は
皆様方におかれまして、あま市を始めとした7市町村に対
し、ご理解・ご協力をいただいておりますことをこの場を
お借りしまして厚く御礼申し上げます。

あま市の次のステージ

今回は、あま市のまちづくりということで、これからあ
ま市がどのようなまちづくりをしていくかということをお
話しさせていただきます。

勇健都市という言葉が入っている基本理念を作らせてい
ただきました。それは『力強く健やかな勇健都市あまを市
民の総力で』という言葉であります。勇健都市とは何かと
いうことですが、こちらに書いてありますとおり、勇健と
いうのは勇ましく健やかなという漢字で書きます。意味合
いとしては、力強く健やかなという意味があります。
勇健という言葉には、まさに力強く健やかな、健康である
という意味であり、もう一つは都市として市民として、力
強い都市を作っていくということでもあります。勇健都市
を目指しながら、今後のあま市づくりを行っていくこと、
まさに勇健な市民づくりをしていくといったことでもあり
ます。こちらは地域の協働による市民の健康増進というこ
とも含めております。そして、地域の絆、こちらは勇健な
地域の絆づくりということで、持続可能な地域社会をつく
っていく、いわゆるコミュニティの大切さということであ
ります。そして都市。まさにこの都市というのが勇健な都
市づくりということで、安全で魅力的な都市空間の構築と
いったことであります。我々行政だけでは市の運営をして
いくことがかなり難しい時代に入りました。三つの力をま
ちづくりに生かさないといけないということでもあります。
自助、共助、公助、災害とか色々なところでこの言葉は使
われております。まちづくりにも、この自助、共助、公助、
本当はもうひとつ近所というものもありますが、この近所
という言葉は、さらに次のステップで使おうかなと思っ
ております。まず自助力といたしましては、市民のみなさん
が自らの力を信じながら、いろんな面で自ら取り組んでい
ただくかたちづくりをつくっていくこと。これを健康に少
し置き換えますと、日頃から皆様方にも健康に気を使って、
また気を付けていただきながら、運動したりスポーツをし
たりしていただいております。それが自分の力であります
ので、そういった気持ちをまちづくりにも生かしていただ
きたいということでもあります。自ら自分の力を信じていた
だく、そしてまちづくりに貢献していただく、といったこ
とでございます。では次に共助力。少しずつ忘れかけてい
るところもあると思いますが、向こう三軒両隣の精神に見
る、地域の絆を皆、協力しながら、これは地域組織、いわ

ゆる、区長を中心とした組織とか、市民団体とか、事業者とかと共に、まちづくりの展開をしていくといったことであります。そして、公助力。まさに我々行政として地域社会の下支えを必ずしていかなければいけない。または仕組みをつくっていくとかたちがこの公助にあたるわけであり、あま市発足時は、『協働』と言ってまいりました。その協働を生かしながら、勇健都市を作っていくわけであり、この3つの力がなくては、まちづくりの展開はしていけないと言っても過言ではないということでもあります。まさに市民の力また各種団体や事業者、そして行政との総力であま市を盛り上げていくといったことであります。

このあま市が次のステージへ進むためにひとつの船に例えて絵を描かせていただきました。このあま市の先ほど説明した3つ、勇健な市民づくり、勇健な地域の絆づくり、そして勇健な都市づくり、といったかたちでひとつの船を描きながら、あま市を描かせていただきました。まず1番最初のこの地域に密着した医療を提供していくということですが、これは、平成27年初秋、市民病院の開院がござい、この市民病院の開院というのは、すでにいろんな医療関係との連携を強化したり、また地域に密着した医療を提供する。そして、新しい建物でありますので、災害に強い建物を造り、免震構造を採用いたしまして、液状化対策もしているところでもあります。約震度7まで耐えられる病院造りでございます。そういった災害が起きても継続して医療提供ができるような施設の整備を行ったところでもあります。次の2番目といたしましては、家族が働きやすい環境をサポートするという、あま市が平成25年の6月にファミリー・サポート・センターを開設いたしました。ファミリー・サポート・センターとはどういうものかと申しますと、依頼の会員と提供会員というのがありまして依頼会員というのは、例えば、共働きでお子様をみれない人は、依頼するわけであり、そして、依頼を受ける方も必要。この二つが必要なわけでありまして、お子様を預けたい、そうするとその依頼会員の依頼を受ける人側と双方が合致し合いながら、ファミリーをサポートしていくといった事業であります。依頼をする側はあま市の場合は、324名います。提供する側（依頼を受ける側）といたしましては、70名であります。今、ファミリー・サポート・センターは、隣の大治町と共同で設置いたしました。これは平成26年の7月からスタートしました。大治町と広域な関係

を持つためにファミリー・サポート・センターを共同で運営をしていくといった形で、大治町を含めると、依頼会員が378名そして依頼を受けてサポートしていただく方が83名で今、協力し合いながらやっているところでもあります。そして、3つ目であり、市民の健康と活力を応援する、というかたち、まさに1番大事な部分であります。市民の健康づくりが1番大事なところでもありますので、こちらの方が昨年の9月から、健康マイレージ事業というものを行わせていただいております。健康マイレージ制度というのは、県も9月からスタートし、あま市も県と一緒にスタートをさせていただきました。マイレージ制度というのは、運動やスポーツするたびにポイントがたまるという制度であります。もう一つはあま市のいろんな事業に参加をすると、ポイントがたまる。そしてポイントがたまると、何にそのポイントが使えるかといいますと、『食で健康なもの』例えばJAとタッグを組んで、JAの食がもらえる制度だとか、『スポーツで健康』、ここで、隣のジムだとかでトレーニング室が使えるような共通の回数券がもらえます。そして、もう一つは万歩計などの健康グッズですね。そういったものと、もう一つはこのマイレージ制度と提供しているお店がありますので、その店に行きますとサービスが受けられる。まずは昨年9月から始めまして先月の28日までがひとつの期間となっております。いったんは期限を決めさせていただいておりますので、さらにまた健康マイレージ制度を充実していこうと思っております。こういったピンク色のものを見られた方がおみえだと思いきり、でもこちらの方に詳しいことが書いてあります。そういった市民の健康増進をしていくために、今後もさらに政策をうっていくところでもあります。もう一つが子どもからお年寄り、高齢者までが参加できる総合型スポーツクラブというものも作らせていただきました。今は休止になっております、七宝プールの事務所でこのスポーツクラブというものが事務所代わりに行っております。どういうものかと申しますと、日頃の運動が例えば、体育協会というのは、色々なスポーツがある中で、協会に入るわけであり、けれども、決してこれは協会に入らなくても、個人でもスポーツができるようなメニューの設定になっております。なかなか日頃見られない、例えばノルディックウォーキング、スキーのストックを使いながら歩く運動であったり、色々なものがござい、興味のある方は訪ねていただく

とありがたいかなと思っております。続いて勇健な地域の絆づくりといたしまして、こちらの方は持続可能な地域社会を作っていくということであります。まさに、この地域コミュニティとボランティア、最初に書いてありますが、地域のコミュニティ、ボランティアなどの活動を支援していくといったことであります。こちらは、昨年10月に開設いたしました、七宝の産業会館の1階でございます、あま市民活動センターというものを開設させていただきました。この活動センターというのはどういうものかと申しますと、NPO団体やボランティアの方々、色々な方が今あま市の中で活動をしていただいております。協働ということで、みなさんが助け合いの心で、色々な活動をしております。その活動をされている方の助けをするセンターといっても過言ではないですし、さらに今から何か活動したいという方にとっても、その活動センターにご相談していただくと、よりよい導きもしていただけるわけでありまして、色々な相談をしていただくとありがたいかなと思っております。次が真ん中でございますが、高齢者の方々に学習または交流の場として提供していこうということであります。これはひとつ例をあげますと、高齢者の方々が生きがいを持って健康づくりに邁進をしていただく、または地域に貢献していただく仕組みづくりを作りたいということでございます。高齢者といっても私の考えでは65歳を高齢者といいますが、65歳の方は本当に健康な方が多いわけでありまして、65歳から高齢者と言わず、65歳はあま市は高齢者といわない政策をとっていかないといけないと思っております。ここで高齢者の方々が生きがいを持って生活していくためにシルバーカレッジ（仮称）。要は大学、学校を作りたいというのであります。今、色々な研究をさせていただきながら、平成28年を目途に大学を作りたい。その大学で何やるかといったことでありますけども、高齢者の方々の健康はもちろんです、先ほど申しました、地域でどのようなかたちで貢献していただけるかといった仕組みづくりの勉強だとか、または、先ほど言った自助、共助、公助のまちづくりに色々なところで参加だけではなく、参画をしていただけるようなかたち作り、色々なかたちで学んでもらおうということであります。そういったカレッジ、シルバーカレッジ、大学を開かせていただきたいということであります。そして、次の右側でございますが、市民の安全な暮らしをサポートするといったことであります。こちらの

方は治安、防犯という問題も含めて、皆様方に色々なところで、見守り隊、小学生の見守り隊もしていただいております。そういった方々のサポートをするということも含めて、今後は治安そして防犯に力を入れていく。まず我々行政としてできることは駅前、駅の駐輪場等に防犯カメラの設置をしていきます。そして、我々行政としてできるのが、市役所には公用車がたくさんあり、職員もその公用車乗って市内を移動しております。その移動の時の公用車に青パト。青色回転灯をつけながら、犯罪の抑止力になるということを年に10台ずつ。まず計画的に導入をしていこうということでございます。これは27年度の予算に反映をしながら、青パトを少しずつ増やしていくといったかたちを取らせていただきたい。もう一つは地域の安全な暮らしをサポートするわけでありまして、今でも、活動を我々と市民の間で活動していただいております、民生委員の皆様方や民間の事業者との連携をきちんと密にとりながら、より一層独居老人または高齢者の方々が安心して暮らせる安否確認のあり方をもっと勉強して支援をしていこうと考えております。勇健な都市づくりであります。この勇健な都市づくりというのは、安全で魅力的な都市空間の構築といったことで、まず我々行政ができるというのが、こちらの道路整備も含めて基盤整備をしていかないといけないということであります。今あま市の財政が、限られた財源の中で、いかに効率的にまたは、効果的に基盤整備をしていくかといったことであります。そして、真ん中でありまして、市内の巡回バスの試行運転。一度どのようなかたちで巡回バスをまわしたらよいのかということを含めまして、試行的に運行していこうということであります。目的といたしましては、高齢者の方や障害者の方が移動する手段のひとつとして、この巡回バスをご利用いただけるとありがたいかなと思っております。他の自治体を見ますと、1億円かけて巡回バスをまわしているところもございます。しかし、ほとんどの自治体が赤字であります。あま市では限られた財源をいかに効率的に、または、持続可能な交通体系をつくっていくかということを目指しながら、試行運行に向けて研究をしているところでございます。最初の頃は行政の施設、役場を中心として、また線路を中心として、試行運行をしていこうと考えております。市がバスを運行するといったかたちですが、地域の絆づくりでも、バスの運行、いわゆる市民のみなさん、事業者のみなさん、そし

て各種団体のみなさんと協議をしながら、いかにして、先程の高齢者または障害者のみなさんの移動手段として、地域のみなさんのお力をお借りして、バスの運行ができないだろうか。バスに限りはないですが、車で移動はできないだろうか、ということも含めて、みなさんと協議をしようと考えております。先程の地域の絆のところでも言い忘れたことかもしれませんが、都市づくりのところでも重なる部分がございます。やはり、この自助、共助、公助という防災につながっていくわけでありますので、防災に関しまして、いったん災害が起きた時、大きな災害が起きた時、市民のみなさんは学校が中心となって、避難をするわけであります。学校の避難場所といたしましては、体育館が避難所になるわけであります。例えば学校が休みの時、または朝早く、または夜、そういう時には学校には入れない。どうしようということで、学校の近所の人に、市民にカギを預けるか、そうするとまた、市民のみなさんに負担がかかる。職員にカギを持たせるかということ、あまりうまく機能しないであろう。学校の先生にカギを持たせるかということ、学校の先生は決して近くにいるわけでもない。そういった色々な考えを研究して、4月からですが、学校の体育館の1番近い門に防災ボックス。スピーカーぐらいの大きさのボックスを設置させていただきました。防災ボックスの中に何が入っているかということ、体育館のカギはもちろん、門のカギも入っております。防災ボックスは日頃は開きません。だいたい震度5弱ぐらいで、ボックスが自然と開くようになっています。いったん揺れがきますと、自然に施錠がとけるようなボックスでありますので、色々とそのボックスを使っただきながら、カギをとって、中に入るかたちをとらせていただきたい。災害がきてもきちんと避難所に市民のみなさんが入れるようなかたちづくりをとったわけであります。そのボックスの中に懐中電灯やハンマーも入っております。いざという時に中に入れない場合、使っただくのも結構ですし、区の皆様方の情報を入れることも可能です。色々なもので使っただくとありがたいです。そして、最後の、老朽化した公共施設の見直しということで、合併前の3町というのは、同じような歩調で建物を建てております。例えば、役場に関しても、昭和の40年後半～50年前半で3つ建てておりますので、老朽化しております。学校も含めて同じような時期に建てておりますので、老朽化が進んでいます。そして各市

町には同じような施設が多い、例えば公民館だとか、色々なものが各町にあったわけであります。その整備をしていかなければいけない。何も壊すということだけではなくて、再利用も含めて、見直しをしていこうということ。先ほど説明しました、活動センターもそのひとつです。もと、七宝町の産業会館1階は開いておりました。その開いていたところをいかに活用していくか、そういったかたちをつくっていくことも老朽化した施設、または公共施設というものを再利用、スクラップアンドビルドしていかないといけない。そして、最も重要な部分はエンジンであります。エンジンが重要でありまして、まさに協働をすすめておりますので、市民のみなさんのお力をお借りしないといけない部分、または地域組織の力を借りないといけない部分、ここが1番大事なところであります。みなさんのお力を借りないと、あま市という船は動かないということでありますので、引き続きみなさま方のお力添えをお願いしたいということです。

地方創生におけるあま市の取り組み

続きまして、地方創生におけるあま市の取り組みについてです。

平成26年12月27日内閣審議官より「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略及び市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について」の通知がありました。これは、各地域が今後予測される人口急減・超高齢化という大きな課題に対して取り組み、それぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生するための方向性を示す「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するよう努めるものです。この総合戦略を進めていくうえで、あま市といたしましては、経済対策に関する内閣総理大臣指示による「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」の利用を考えております。2つの交付金項目があり、その1つに、地域消費喚起・生活支援型事業があります。これはエネルギー価格の高止まりなど物価動向や消費に関する地域の実情に配慮しつつ、地方公共団体が実施する、消費喚起策やこれに直接効果を有する生活支援策であり、あま市といたしましては、国から示されたメニューである「プレミアム付き商品券の発行」を選択しました。このプレミアム付商品券とは、額面より1割～2割お得な商品券を発行・販売し、

これを購入した消費者が、市や商店街が指定した商品券の販売登録をした地元商店等において商品やサービスに使用するものです。これにより消費者はプレミアム分がお得に購入できるというもので、地元消費の拡大、地域経済の活性化につながると期待するものです。

もう1つは地方創生先行型事業です。地方版総合戦略の早期かつ有効な策定とこれに関する優良施策等の実施に対して支援するもので、こちらにつきましては、2つの事業を予定しております。1つ目の事業としては、少子化対策として地域における保育環境の改善事業を検討しています。これは、保育園の園庭などを開放し遊び場を提供することにより、地域の子育て家庭に対する支援を行います。

そのためには、安心して遊べる遊び場及び交流の場を整備する必要があります。場所が整備されることにより、保護者同士の交流及び地域に住む人との交流を促進し、コミュニティの形成につながります。また、地域の実情に即し、育児をしやすい環境整備等の取り組みを推進することにより、安心して結婚・妊娠・出産・子育てできる地域づくりが達成していると考えられる人が増え、子育てへの安心感が生まれれば、子育て世代の流入が見込まれ、少子高齢化の中で人口減を抑制し、地域の活性化にもつなげられると考えております。2つ目の事業は、地域住民生活等緊急支援のための交付金としてシルバーカレッジ事業を検討しています。これは、空部屋を再利用し、高齢者に学習と交流の場を提供してシルバーカレッジを開催するものです。シルバー世代の学習環境を整え、生涯現役社会の実現に向け高齢者がいきいきと活動できる地域、あま市が掲げる力強く健やかな「勇健都市」を目指します。加えて参加者の社会貢献という目標達成に向けて、学習環境を整えることは必要不可欠なものと考えております。あま市としましては、以上の事業を行うことで、高齢者が活躍できる「全員参加の社会」が実現でき、人々が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる社会環境をつくり出すことができると考えております。

海部地区の現状と今後の課題

続いては、海部地区の現状と今後の展開になります。

あま市をはじめとした海部地区は、名古屋市の西に位置しており、広大な濃尾平野とそこを流れる河川の恩恵を受けた肥沃(ひよく)な土壌で、田園風景に囲まれた緑豊かなま

ちです。その一方で海拔ゼロメートル地帯を多く含み、地震発生時の危険性が高い地域でもあります。

平成26年1月1日現在の海部地区の人口は、合計336,594人です。また、面積については、208.44㎦であり、愛知県全体の面積の4.04%となっております。財政力指数については、飛島村を除いた6市町村については、1を下回っており必ずしも高いというわけではありません。海部地区を取り巻く情勢は依然厳しいものではありませんが、あま市では「力強く健やかな勇健都市 ‘あま ‘を市民の総力で」を基本理念として掲げ、この「勇健都市」の実現に向けて各行政分野で懸命に取り組んでいます。このように、あま市においては様々な取り組みを行っていますが、その一方では、最近の情報通信手段の急速な発達・普及によって、住民の活動範囲は行政区域を越えて飛躍的に広域化しており、広域的な交通体系の整備、公共施設の一体的な整備や相互利用、行政区域を越えた土地の利用など広域的なまちづくりや施策に対するニーズが高まってきています。さらに今日、少子高齢化や環境問題、情報化の進展といった多様化・高度化するとともに広域化する行政課題への的確な対応に迫られています。こういった広域行政に対する対応として、平成24年9月にあま市・大治町・蟹江町・飛島村の4つの自治体が、連携してまちづくりを行うとする趣旨のもとAOKTまちづくり連携会議が設立されました。その中では市町村事務の連携、調整、産業、観光、商工分野における振興、住民間の交流促進、公共施設の利活用など連携を図る施策について協議し、その実現に向けた意見調整を図っています。その中の1つとして昨年11月には、AOKT地域間交流事業(明眼院、七宝焼アートヴィレッジ、あま市イルミネーションフェスタ点灯式)を開催することができ、新たな自治体連携の形成に寄与することができました。また、防災関係について、これまでにあま市では、災害時における支援協力の協定について様々な企業や団体と締結してきましたが、広域行政という点では、昨年の11月に7市町村、NEXCO中日本、愛知県で構成した「海部地域津波避難研究会」を立ち上げるなどをし、広域行政にむけた取り組みを進めてきております。今後についても、近隣市町村など広域的に展開をしていきたいと考えております。さらに、2027年度に予定されている東京-名古屋間のリニア中央新幹線の開業に向けて、名古屋駅周辺は着々と準備が進められていくと思います。この開業により利

便性は今まで以上に向上していくものと考えられます。あま市では、このリニア開通のインパクトをうまく活かした地域づくりを行うためにも近隣市町村を巻き込んで、愛知・名古屋を訪れる人達に、海部地区にも併せて訪れていただき、この地域の魅力を知ってもらい、観光・交流人口を拡大していければと考えております。この他にも広域連携・消費生活・広域観光等についても近隣市町村を巻き込み調査・検討をしていこうと考えております。

終わりに

これからのあま市のまちづくりのなかで、地域の活性化と発展を遂げていくためにも、市民の皆様の協力が不可欠です。市民の皆様と共に手を取り合い、安心して暮らせるあま市を築いていきたいと考えています。

ご清聴ありがとうございました

「入会5年以下の会員向け研修会（第3回）」開催

文責 臼井幹裕幹事

栗木年度「入会5年以下の会員向け研修会」第3回が、17名の参加を得て「R財団と米山奨学会の基本の『き』」という内容で下記の日時・場所にて開催されました。

日時 平成27年2月16日

午後6時～午後6時45分

場所 スカイダイニングG

今回は、米山奨学生のカウンセラーのご経験のある伊藤英毅会員をゲストに迎え、恒例の鈴木正徳DL（ディスカッションリーダー）によるRLI方式での研修となりました。冒頭に伊藤英毅会員のスピーチがあり、ロータリー歴30年に及ぶ豊富な経験に基づくお話は参加者に深い感銘を与えました（その後の懇親の席で「もっと聞きたかった」との声あり）。また、基本の『き』だったからでしょうか、3回目ともなると参加者の姿勢にも変化の兆しが見られ、鈴木DLの質問に対しても、怯まずに答える声が上がっていました。昼の例会を欠席しても本研修会に参加するありがたい(?)会員もいて、期待の高さが窺われます。

さて、第4回はいよいよ最終回となります。5月19日(火)18時から「職業奉仕」をテーマに開催を予定しています。是非ご参加下さい。

「事前対策で心にゆとりを！」

吉田 勤君

相続実務をやっていると、相続税申告が必要だと、相続人の負担が大きく異なります。主なものとしては、次の三つがあります。

1. 期限が区切られる

相続税の申告期限は相続開始から10ヶ月以内になります。相続税では遺産分割協議ができていないと適用できない特典がたくさんあるため、遺産分割の話し合いも急いでする必要が出てきます。

2. 遺産の確認作業が細くなる

相続税の申告になると、相続人が財産としての価値を認識していないような物についても、調べて申告をしなければなりません。あとから追加の財産が出てきてしまうと、加算税や延滞税といったペナルティが課されてしまう可能性があります。

3. 申告後の調査の不安

きちんと申告していても、やはりその後の税務調査は不安なものです。実際に調査の連絡が入った方は、不安で夜も眠れないといった思いをされる方も少なくありません。

このような不安を解消するために、生前の相続対策をご検討されてはいかがでしょうか？



例 会 変 更		
例会日	クラブ名	場 所
3/10 (火)	名古屋錦	名古屋ガーデンパレス
3/11 (水)	名古屋和合	ウェスティンナゴヤキャッスル
	名古屋名北	APAホテル
3/13 (金)	名古屋守山	マリオットアソシアホテル
	名古屋北	名古屋東急ホテル
3/16 (月)	津島	休会
	名古屋空港	休会
	名古屋東	ウェスティンナゴヤキャッスル
	名古屋昭和	名古屋東急ホテル